第 8 期諏訪湖水質保全計画の策定について（中間報告）

第 8 期諏訪湖水質保全計画専門委員会

1 策定の目的

諏訪湖では、昭和 62 年度以降 7 期 35 年にわたって湖沼水質保全特別措置法に基づき湖沼水質保全計画（以下「計画」という。）を策定し、下水道の整備、工場・事業場の排水規制、農地からの汚濁負荷量の削減などの施策を進めてきた。

こうした取組の結果、水質は改善傾向にあるが、行政機関、地域住民、事業者の協働により、生態系の保全を含めた水質保全施策を一層推進するため、令和 4 年度を初年度とする「第 8 期諏訪湖水質保全計画」を策定する。

2 これまでの検討状況

(1) 委員

委員長	宮原 裕一	(信州大学理学部 湖沼高地教育研究センター 諏訪湖臨湖実験所 教授)
委員長代理	沖野 外輝夫	(信州大学 名誉教授)
委員	伊藤 雅章	(岡谷市市民環境部環境課 課長)
〃	小川 滋	(長野県水産試験場 場長兼諏訪支場長)
〃	小松 八郎	(信州諏訪農業協同組合 代表理事組合長)
〃	高村 典子	(国立研究開発法人国立環境研究所 客員研究員)
〃	寺島 範和	(茅野市市民環境部環境課 課長)
〃	豊田 政史	(信州大学工学部 水環境・土木工学科 准教授)
〃	藤森 良隆	(諏訪森林組合 代表理事組合長)

(2) 開催状況

【第 1 回専門委員会】 令和 4 年 7 月 14 日（木）

○第 7 期計画の水質保全施策の進捗状況、第 8 期計画の骨子等について審議

○主な意見

- ・生物の生息基盤整備への取組を支援するような計画が必要。
- ・健全な生態系に戻すための計画を検討してほしい。
- ・諏訪湖の窒素濃度が減少している原因を検討すべき。
- ・ヒシ繁茂帯での貧酸素化を考慮して底層溶存酸素量の測定地点を選定すべき。

【第 2 回専門委員会】 令和 4 年 9 月 9 日（金）

○諏訪湖の水質の将来予測、第 8 期計画（素案）等について審議

○主な意見

- ・水質目標値については妥当。
- ・底層溶存酸素量の測定地点は月 1 回より、連続測定を検討すべき。
- ・生態系保全や景観保全の観点から、ヒシ刈取り量の増加を検討してほしい。
- ・湖内における重点対策エリアを設定してはどうか。

3 第8期計画（素案）について

(1) 概要

○計画期間 令和4年度～令和8年度（5年間）

○計画期間内に達成すべき目標

項目	水質目標 (令和8年度)	現状 (令和3年度)	環境 基準	[参考] 第7期計画
COD（75%値）	4.8mg/L	5.5mg/L	3mg/L	4.8mg/L
COD（年平均値）	4.1mg/L	3.9mg/L	--	4.4mg/L
全窒素（年平均値）	0.62mg/L	0.62mg/L	0.6mg/L	0.65mg/L
全りん（年平均値）	現状水準の維持	0.041mg/L	0.05mg/L	現状水準の維持
透明度（年平均値）	1.3m以上	1.2m	--	1.3m以上

(2) 主な取組

ア 水草の除去

- ・ 水草刈取船によるヒシの刈取り量は年510トン以上を目標とし、試行的に刈取量を増加し、生態系への影響を観察
- ・ 生物生息域や景観の保全に配慮した刈取方法や刈取時期を検討

イ 覆砂（浅場造成）

- ・ 湖岸域の一部で覆砂を実施し、湖底からの窒素・りん溶出と貧酸素化を抑制

ウ 底層溶存酸素量の環境基準の類型当てはめ

- ・ 保全対象種の生息状況等を踏まえて、底層溶存酸素量の環境基準の類型当てはめを行い、シミュレーション結果や水草の繁茂状況を参考に測定地点を設定

エ 生物豊かな湖岸域の復元・創出

- ・ 水質改善対策とともに、漁礁の設置など湖内での生息・産卵場所の整備を検討
- ・ 魚食性鳥類や外来魚による漁業被害対策を継続し、魚や貝類が棲みやすい豊かな漁場環境を再生

オ 調査研究の推進

- ・ 諏訪湖環境研究センター（仮称）を設置し、諏訪湖を一体的・総合的に調査研究する体制を整備

4 今後のスケジュール

時期	内容
9～10月	計画（素案）への意見募集（パブリックコメント）
10月	第3回専門委員会
11月	長野県環境審議会答申
12月	市町村意見聴取、河川管理者との協議
令和5年1月	環境大臣との協議（環境省から関係省庁に協議）
3月	環境大臣の同意、策定、公告